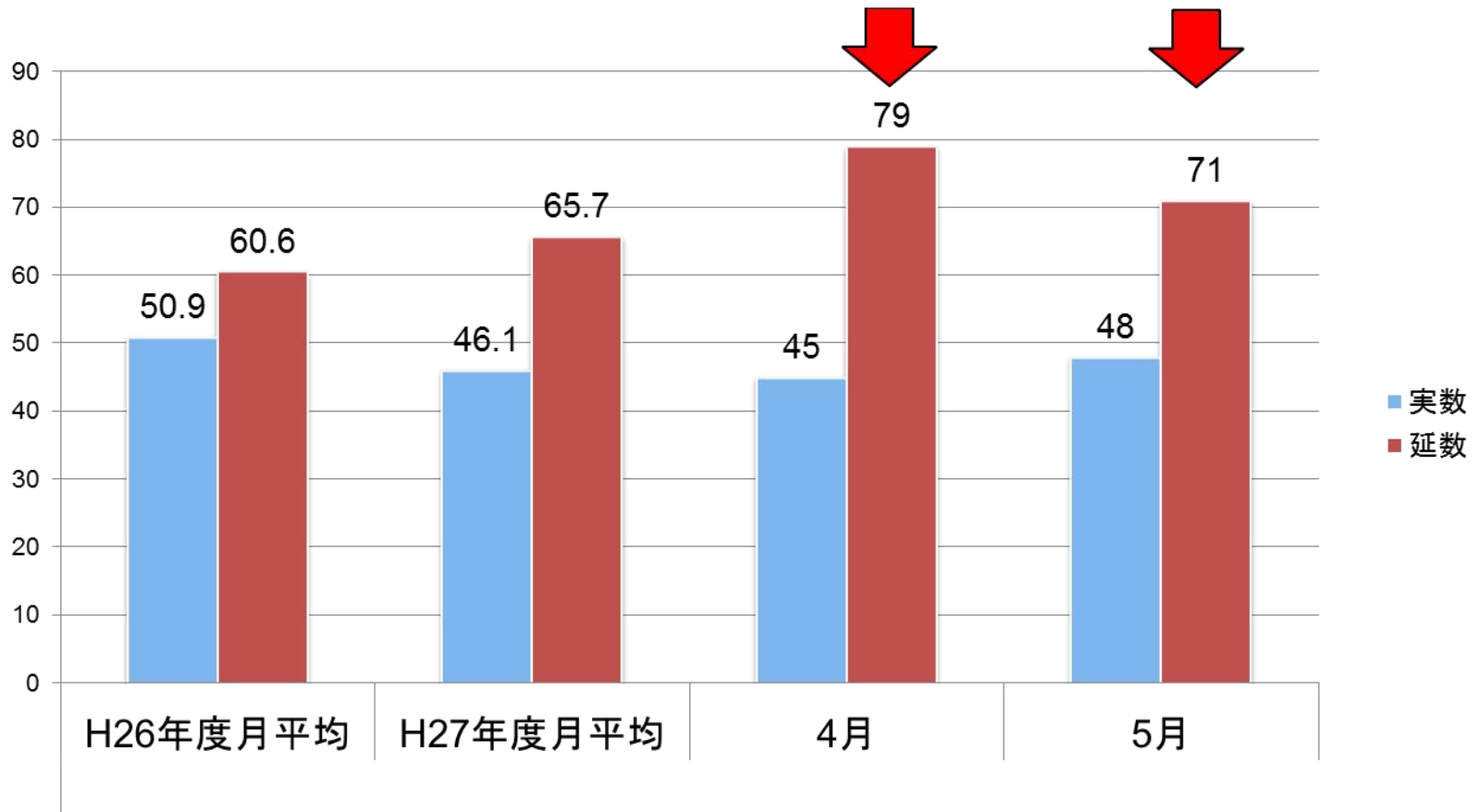


柏地域医療連携センター 相談状況

H28年5月末現在

地域医療推進室

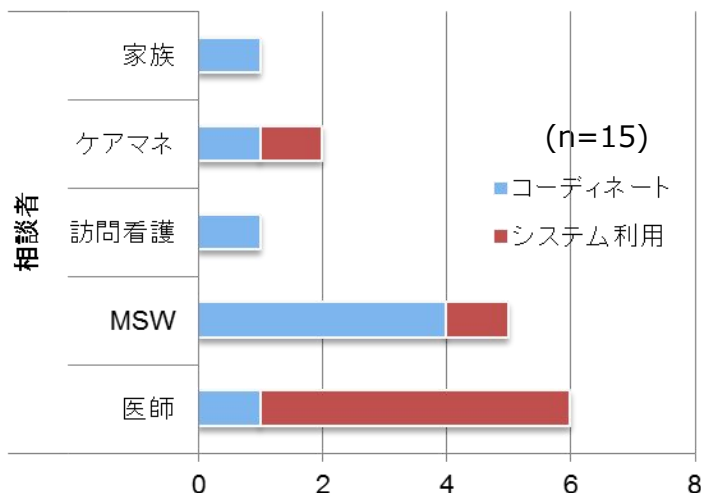
1 月別相談件数



- 26・27年度とH28年4～5月の相談件数を比較すると、月平均の実数は同等、延数は上回る状況だった。
- 相談対象者や疾病の割合に変化はなかった。主な相談内容では、在宅医療に関する相談34%、受診・受療や介護に関する相談が18%であった。
- 相談結果は、終了 78名 (83.9%)、在宅医療コーディネーター 8名 (8.6%)₂、情報共有システム利用 7名(7.5%) であった

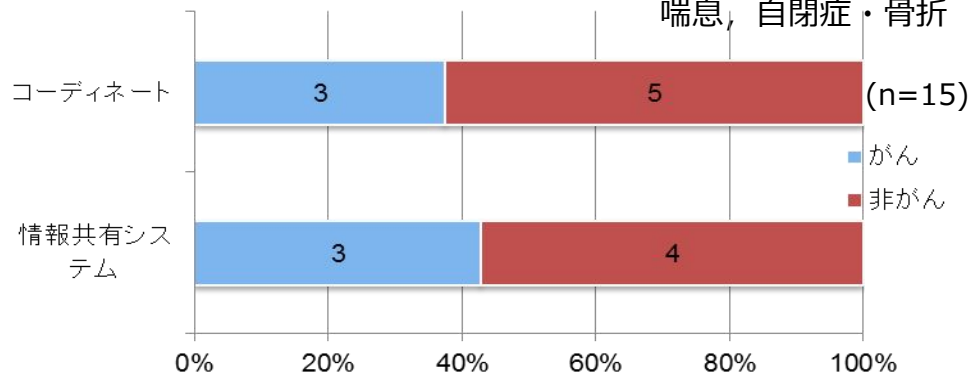
2 継続相談の内訳 (H28年4月～5月 相談実数：93名 内継続：15名)

①相談者の内訳



②対象者の主疾患

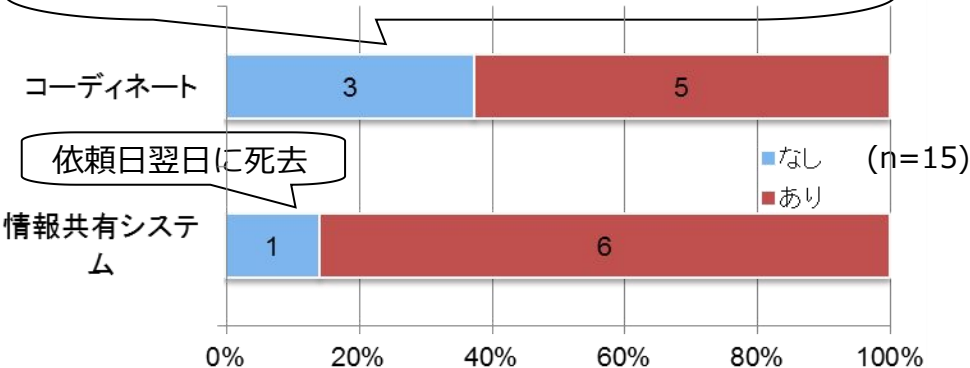
※非がん内訳
認知症, 髄膜炎後遺症,
ALS, 心房細動・誤嚥
性肺炎, 骨折・DM,
喘息, 自閉症・骨折



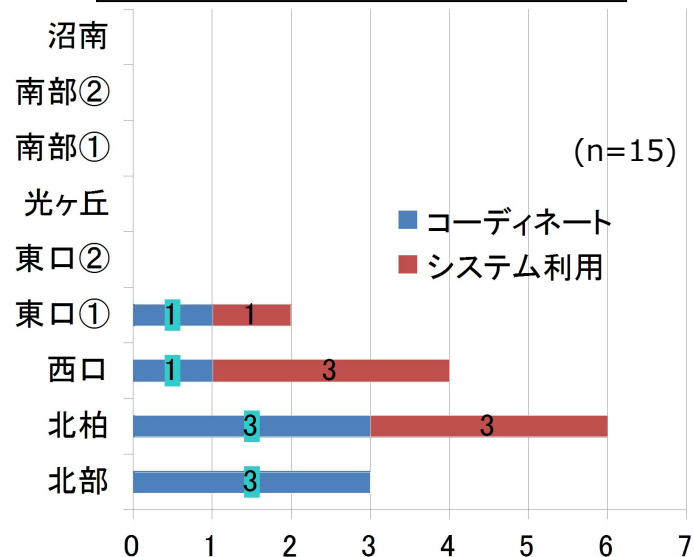
③コーディネーター状況 情報共有システムの利用状況

【コーディネーターに至らなかった理由】

退院日直前での依頼, 病院のCMが在宅後の環境整備
をしていたことを把握していなかった状況での依頼



④対象者の居住エリア



3 まとめ

- 27年度の相談延べ件数は、月平均65.7人であったがH28年4～5月の2ヶ月平均は75人と増えた。
- 継続相談の内訳では、在宅医療コーディネートの依頼はMSWから、情報共有システム利用の依頼は、在宅医師からが多かった。
- 在宅医療コーディネートの依頼8名の内5名については、主治医や訪問看護の紹介・調整を行った。他3名は、コーディネートに至らなかった。
- コーディネートに至らなかった理由は、退院日直前に依頼があり調整が困難であった。また入退院を繰り返す患者・家族の在宅生活の基盤整備を、病院のCMが行っていることを把握していない状況で依頼があり、結果、病院の訪問看護を利用することとなった。
- 今年度は、病院MSWや包括等と相談状況等を通じた現状と課題の共有していきたい
(H28年4月に病院MSWとの意見交換を実施)